

排水路の法面形成に着手（長寿命化事業）



雪のちらつく中、作業は進む



水路の現場を見て、状況を確認。工事の必要性と作業の内容を検討

施設の長寿命化事業はこれまで、水路の改修などを行ってきました。昨年は水路の法面の形成工事を大森排水路で実施しました。

この事業については市の農業整備課と数回のヒアリングなど事情の説明を要しましたが、実際の効果は想像以上に高いものでした。まず第一に挙げら

れるのは除草作業の効率化です。断面が台形になるので、作業がスムーズになります。邪魔な雑草ですが、これが法面の泥の崩落を防いでくれているわけですから、上手に管理するしか方法はありません。

また、圃場からの漏水の発見も欠かせない点です。現在は畔塗り機の使用で、圃場側の管理は比較的簡単にできていますが、水路との畔部分は長年の除草枝葉の積み上げによって柔軟な地盤となり、漏水の原因となる要因が多くあります。この部分の形成と加工圧力によって漏水を防ぎ、発生した場合も早期に発見できるという利点があります。

今年度は当地域の圃場の中で最も長い西ノ池排水路の改修に取り掛かることとなりました。延長は430メートル、今までの手作業での除草や、水路からの泥上げでスポンジマットのような状態になっています。それでも排水路の泥上げ作業の際には、年度ごとに泥を上げる法面を交互に変更して、偏ることのないように、努力はしてきたのです。

予算の問題、工事時期それぞれの条件をなんとかクリアしながら、今期の改修に漕ぎつけました。水路の管理は雑草の力を借りながら、除草を行うという、相反的な作業を要求される、非常に悩ましいものなのです。

氷点下4度 寒い寒い

1月25日の朝、八方原は雪に覆われました。道路は凍結、歩くのにも大変な状況でした。

今年の寒波は例年になく厳しいようです。ご自愛ください。



一年の始まりをお祝い（1月7日）

以前は消防組の出初式が終了するのを待つて地区新年会を行っていましたが、消防組の行事が省略され、単純に新年会で実施するようになりました。

新年会の開催に当たっては、各方面の方々からたくさんのお祝いを頂きました。おかげをもちまして、盛大に新年を祝うことができました。誠にありがとうございました。

八方原自治会

会長 原田茂樹

チームハツポウ力を存分に発揮

第13回山口市駅伝競走大会は、1月14日にきらら博記念公園特設コースで開催され、チームハツポウは一般1部20位(55分16秒)の成績を上げました。93チームの出走ですから、好成績といえます。

チームの描いていた予定では53分40

秒のゴールとなるはずでした。ところが最終走者予定の国本選手がひざを故障。回復をぎりぎりまで待ったのですが、本番前日にメンバーの入れ替えをせざるを得ませんでした。

今回のチャレンジではチームのシャツとして黄色のTシャツを用意しまし

た。たくさんの選手の中で自分のチームのランナーを容易に確認できるようにになります。

1区は予定通り原田裕基選手です。昨年は区間賞の注目のランナーです。当然マークもきつくなり、他チームも走者を入れ替えてきました。前半から激しい競り合いとなりましたが、高校生のランナーを要した平川地区がトップで、たすきを渡しました。遅れること61秒、総合5位でハツポウのたすきは國田純一選手にわたりました。

國田君は昨年少しコンディションを崩していまし



総合5位(一般4位)で2区にたすきが(原田裕基選手から國田選手へ)

た。今年は軽快に走り、安定したペースでピッチを刻みました。しかし、この2区は距離が短いだけにスピード競争です。スピード自慢の他チームにじりじりと離されます。しかし、ねばって8位で3区に。ところが走者の原田昌通選手がコース

スパートする大本選手、左右の色違いの靴にも注目し、チームのたすきは確実に運ばれ、4区の前田広文選手に渡ります。広文選手はチームの中では年長ですが、その安定した走りは円熟の境地。どんな時でも同じような力が発揮できるとい

昌通選手は、昨年来両膝をかばいながらの練習で、痛みなどの戦いでした。本番には何とか間に合わせたものの、本来のスピードには及びません。しかし

うのは、素晴らしい能力です。レースはいよいよ最終盤、最後のランナーにたすきが託されました。最後のランナーは大本宗範選手です。大本選手は期待通りの快走、前を行くランナーを次々に捉えて、追い抜きます。いよいよドームに入った時に最後のランナーを捉えようとしたのですが、1秒差で後塵を拝しました。

地区の皆様、ご声援ありがとうございました。

監督 原田茂樹



両膝のサポーターの昌通選手から広文選手

